

## 2009 年度受託研究概要報告

# 有馬地区「デザイン性のある水飲み場」整備計画における水飲み場のデザイン制作研究

## 研究メンバー

相澤孝司 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授  
相良二郎 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授

## 委託者

神戸市水道局

## 研究概要

観光地である有馬において、地域と連携しながら「デザイン性のある水飲み場」を設置し、有馬温泉を訪れた観光客に水道水を飲んでもらうことで、水道水の「おいしさ」をPRすることを目的とし、次に示す水飲み場のデザイン制作について研究を行った。有馬のイメージに調和した水飲み台のデザイン及び説明看板のデザイン。

設置場所は、神戸市北区有馬町 1019「有馬工房」の前。デザイン条件は、大きさ H: 1300、W: 800、D: 800 程度。水飲み台として独立した据え置き型。収納された冷水機のメンテナンスが容易に行える構造。ユニバーサルデザインを考慮したものである。

## 研究成果

本研究では、神戸市水道局から依頼を受け、研究内容(前述研究概要参照)から相澤孝司教授、相良二郎教授の教員が担当した。本学学生による水飲み場のデザイン提案を趣旨としているために、プロダクトデザイン学科生活・ユニバーサルコース3年次学生に告知し、有志学生6名による研究チームを組織した。当初神戸市側から有馬温泉の複数の設置場所が提示されたが、その他の場所も含めて再検討してほしいとのことで、平成21年、学生と教員4班に分かれて有馬温泉の現場に出向き、設置場所の調査を行った。調査の結果、有馬工房前行基像横のエリアを第一候補とした。その理由は、「だれでもトイレ」がある。歴史遺物に囲まれている。街中から炭酸泉源や湯泉神社への途中で水が欲しくなる。周囲に自販機がない。高低差を利用できる。アクセスルートがある等である。有馬温泉観光協会理事会において調査結果を報告し、設置場所が承認された。

後日有志学生たちによる現場視察を行い、本研究のデザインコンセプトを検討した。各学生がアイデアスケッチを開始し、平成21年12月25日に各学生による第一回目のデザイン提案を行った。当日の出席者全員による投票の結果2案に絞り込んだが、学生たちによる共同制作の観点からも2班に分けそれぞれの作業を分担し、

平成22年1月25日の最終プレゼンテーションに臨んだ。しかし、議論の結果、最終選考は有馬工房においてデザイン2案をパネル形式によるでの投票とした。投票の結果、大澤知行氏案となった。デザインコンセプトは、ユニバーサルデザインに配慮して飲み口は本体左右2カ所設け、現場の高低差を利用している。屋外仕様となるため、落ち葉などのゴミを直接外部の排水口に流す方法を採用した。素材はFRPで製作し、植物の芽をイメージした造形を可能とした。夜間はライトアップして演出している。平成22年3月27日の竣工式には、全員の学生が出席し、設置された実物の水飲み場に本研究における共同制作の喜びを分かち合っていた。



写真1 竣工式に出席した6名の学生たち（平成22年3月27日）



写真2 設置された水のみ場



写真3 落ち葉などのゴミを直接外部に流せる排水口